

第1章 金正恩政権2年目（2013年）の国内政治

平井 久志

1. はじめに

北朝鮮では2011年12月17日に金正日総書記が死亡し、金正恩時代が始まった。金正恩政権がスタートした1年目については国際問題調査研究・提言事業「2012年の北朝鮮」の「第1章 金正恩時代の国内政治について」で報告をした。この報告では金正恩政権が発足してから、2013年2月12日の第3回核実験までの北朝鮮の国内政治について述べた。

本報告では、国内政治の流れの連続性を理解するために2012年12月12日の事実上の長距離弾道ミサイルである「光明星3号2号機」の発射から、2013年末までの北朝鮮の国内政治の動向について報告する。

先の報告でも指摘したが、北朝鮮は最高指導者を「首領」とし、北朝鮮という国をひとつの社会政治的生命体とする独特のイデオロギーをもった国である。金正恩政権の発足にあたり、さまざまな予見がなされたが、金正恩氏の北朝鮮は、予見を超えた動きもみせている。それは2012年7月に李英鎬軍総参謀長という軍の最側近を粛清、そして2013年12月には金正恩第1書記の叔父にあたる張成沢党行政部長を解任、処刑するという衝撃的なニュースとなってわれわれの前に現われた。多くの研究者は、金正恩政権は有力な側近勢力によって支えられながら国家運営を進めると考えたが、政権発足2年にして軍と党の最側近を粛清し、予想以上のスピードで最高指導者の指導力を強化するという方向性を示している。

金正恩政権が世襲政権である以上、金正日時代の「継承」の側面を強くもっていることは事実だが、30歳前後の若いリーダーの登場による「変化」の側面も無視できない。金正恩政権を「継承」と「変化」の両面からみる視点は有効であると考えられる。

2. 「光明星3号2号機」打ち上げと第3回核実験

北朝鮮は2012年12月12日、事実上の長距離弾道ミサイルである人工衛星「光明星3号2号機」の打ち上げに成功した¹。朝鮮中央通信は12日、「光明星3号2号機」の打ち上げ成功を伝えながら、「全国に金正日総書記への限りない懐かしさと敬慕の念が満ち溢れている時期に、われわれの科学者、技術者は金日成主席の生誕100周年にあたる2012年に科学技術衛星を打ち上げるという金正日総書記の遺訓を立派に貫徹した」とその意義を称えた。

北朝鮮当局は何としても2012年中に「光明星」の打ち上げを成功させる必要があった。北朝鮮はこれまで、人民の生活向上という約束を果たせないでいる。「強盛大国の大門が開いた」という発表もなく、「強盛大国」という言葉すら消え、最近では「強盛国家」という言葉にすり替わっている。北朝鮮当局は「強盛国家建設のスタート」を示すためにも、衛星打ち上げを成功させ、金正日総書記の遺訓を達成する必要があった。それが「金日成国家」の「金日成民族」が金日成主席の誕生100年の2012年に奉じなければならない成果であったからだ。

北朝鮮の今回の「光明星3号2号機」の打ち上げ成功は、北朝鮮が大陸間弾道ミサイル(ICBM)技術獲得に大きく近づいたことを意味する。

韓国の金寛鎮国防相は、今回発射されたロケットの射程は1万キロメートル程度との見方を示した²。また、韓国軍消息筋によると、今回打ち上げた第1段ロケットの燃焼時間は156秒で、4月に失敗した際よりも26秒延長することに成功した³。これにより、今回のロケットの飛距離は1万キロメートルから1万3000キロメートル以上になっている可能性があるという。北朝鮮から1万キロメートルならロサンゼルスなど米西部、1万3000キロメートルなら米本土をほとんどカバーする。北朝鮮は射程だけを考えれば米本土を打撃することのできるミサイル技術を保有した。

さらに、韓国の元世勲国家情報院長は12月13日の国会情報委員会で、「北朝鮮は第3段分離後に地上からの指令で飛行経路を変更する誘導操縦技術を獲得したものとみられる」と語り、北朝鮮のミサイル誘導技術の向上を指摘した⁴。

もちろん、これだけでは大陸間弾道ミサイル（ICMB）技術を保有したとは言えない。ミサイルを大気圏外に上げる技術を獲得すれば、大気圏外では抵抗も少ないため射程延長は比較的容易である。

北朝鮮の今後の課題は2つ。まず、大気圏外に出たミサイルが再び大気圏内に突入する際にミサイル機能を失わない技術。具体的には、再突入の際の角度の調整などの誘導技術や高熱に耐える外壁素材の開発などだ。そして、もうひとつの課題は弾頭部分の小型化である。北朝鮮が今回打ち上げた「光明星3号2号機」は100キログラム程度に過ぎない。核弾頭を搭載するためには、核兵器の小型化を実現しなくてはならない。さらに、ロケットに搭載する重量をさらに大きくする改良も必要である。

国連安全保障理事会は2013年1月22日（日本時間23日早朝）、北朝鮮の主張する人工衛星発射は長距離弾道ミサイル技術を利用したもので国連制裁決議違反に当たると非難し、制裁強化決議を全会一致で採決した。

北朝鮮外務省は23日、すぐに国連安全保障理事会による制裁強化決議案の採択を非難する声明を発表し、「米国の制裁圧迫に対処し、核抑止力を含む自衛的な軍事力を拡大、強化する物理的対応措置を取るようになる」と3度目の核実験を示唆した⁵。翌24日には国防委員会が声明を発表し「米国などの敵視策動を粉碎する全面对決戦に突入する」と主張、「高い水準の核実験」の実施を明言した。声明は「われわれが継続して発射する衛星や長距離ロケットも、高い水準の核実験も、われわれの敵である米国を狙うことになる」と強調した⁶。

1月26日の朝鮮中央通信によると、金正恩第1書記は外交安保部門の幹部を集め「国家安全・対外部門の幹部協議会」を開催し、金正恩第1書記が「国家的な重大措置を取る断固たる決心」を表明した。この協議には軍部からは崔龍海軍総政治局長、玄永哲総参謀長、公安機関から金元弘国家安全保衛部長、党から朴道春軍需担当書記、金永日国際担当書記、洪承武党副部長、内閣から金桂官第1外務次官の7人が参加した。張成沢国防委副委員長は参加しなかった⁷。

さらに朝鮮中央通信は2月3日、党中央軍事委員会拡大会議が開催され、金正恩第1書記が「国の安全と自主権を守る上で綱領的な指針となる重要な結論」を下したと報じた。北朝鮮の党中央軍事委員会の開催が報じられたのは初めてとみられた。同通信は「会議は軍と人民の戦いを力強く鼓舞し、国の防衛力をあらゆる面から強化する上で重要な契機になる」と伝えた⁸。

そして、北朝鮮は2月12日、咸鏡北道吉州郡豊溪里で3回目の核実験を行なった。朝鮮中央通信は同日午後2時40分ごろ、「第3回核実験を成功裏に実施」と報道。同通信は「爆発力が大きく、なおかつ小型化、軽量化された原子爆弾」を使い「多種化されたわが方の核抑止力の優秀な性能が物理的に誇示された」と報じた⁹。北朝鮮外務省スポークスマンは同日談話を発表、第3回核実験は「断固たる自衛的措置」とし、「米国があくまで敵対的な行動に出て情勢を複雑にするなら、よりレベルの高い第2次、第3次の対応」を講じると警告した¹⁰。

国連安全保障理事会は同日、北朝鮮の3度目の核実験に対し過去の安保理決議の「重大な違反」とし、強く非難する報道声明を発表した。米国と中国は、新たな制裁決議案づくりに向け折衝を開始した。国連安全保障理事会は3月7日午前（日本時間8日未明）、北朝鮮による3度目の核実験を非難し、制裁を大幅に強化する決議案を全会一致で採択した。核・弾道ミサイル開発につながる物資や資金を絶つため、金融規制を拡大、禁輸物資を積んでいると疑われる船舶の貨物検査を各国に義務付け、追加核実験には「重大な措置」で応じると警告した。

3. 2013年「新年の辞」

金正恩第1書記は、2013年元旦、故金日成主席が1994年元旦に行なった「新年の辞」以来、19年ぶりとなる「新年の辞」を約24分にわたり肉声で演説した。「新年の辞」は「宇宙を征服したその精神、その気迫で経済強国建設の転換的局面を開こう！」をスローガンに掲げ、2013年を「金日成・金正日朝鮮の新たな100年代の進軍路で社会主義強盛国家建設の画期的な局面を開く壮大な創造と変革の年」と規定した¹¹。

北朝鮮は金日成主席誕生100周年の2012年を「強盛大国の大門を開く」としてきたが、現実には「強盛大国の大門」は開かず、「強盛大国」というスローガンも次第に使われなくなり「強盛国家」というスローガンに代わっていった。また、「金日成同志と金正日同志は朝鮮人民が数千年の歴史において初めて迎え高く戴いた偉大な首領であり、白頭山大国の永遠なる影像であり、すべての勝利と栄光の旗じるしです」と「白頭山大国」という言葉を使った。北朝鮮の公式メディアが「白頭山大国」という表現を使ったのは今回が初めてではない。「強盛大国」というスローガンを「白頭山大国」というスローガンに言い換えようとしているのは、いまだに食の問題すら解決できない状況で「強盛大国の大門が開いた」とは言えないからだ。だが、金正恩後継体制への忠誠を強化しなければならないなかで、金日成主席、金正日総書記、金正恩第1書記という「白頭山血統」を前面に押し立てて体制維持を図ろうという意図であろう。

「新年の辞」では13回も「主体」という言葉が使われているが、「主体思想」という言葉は姿を消した。同じように「先軍」は6回使われているが、「先軍政治」や「先軍思想」への言及はなかった。しかし、「新年の辞」全体を流れる論調は極めて「先軍」を強調したものだ。「主体思想」や「先軍思想」が姿を消して、それに代わって登場したのは「金日成・金正日主義」だった。

北朝鮮は1月28、29両日、平壤で朝鮮労働党第4回細胞書記大会を開催した¹²。金正恩第1書記は「開会の辞」で、細胞書記大会を1万人規模で開催することは金正日総書記の「遺訓」であったと明らかにした。

金正恩氏は演説で「人民に奉仕する」ことを強調し「権力をふるい、官僚主義的にふるまう者こそ、わが党が断固戦うべき主な闘争対象である」と党の官僚主義を激しく批判した。「党が権力乱用と官僚主義をなくすことについて強調すると、思想闘争会議を開いて幾人かの幹部を処分するにとどまり、幹部を革命化する活動を根気よく行なっていない」と党の姿勢を批判した。

4. 「休戦協定」白紙化などの挑発路線

北朝鮮の核実験への国際的な非難が強まるなかで、北朝鮮は3月5日、朝鮮人民軍最高司令部報道官声明を発表し、米韓合同演習が本格化する3月11日から「朝鮮戦争の休戦協定を白紙化する。板門店代表部の活動を全面中断する」と表明した。声明は、米韓合同軍事演習を非難し、北朝鮮が行なった3回目の核実験に対する国連安全保障理事会が推進している制裁協議も非難して「より強力で実際的な2次、3次の対応措置を連続で取る」と威嚇した¹³。

さらに翌3月6日には、党機関紙「労働新聞」は「われわれは精密な核攻撃でソウルのみならずワシントンまで火の海にする」と威嚇する軍幹部の声を報道した¹⁴。

朝鮮中央通信は同7日、金正恩第1書記が同日、2010年に韓国の延坪島を砲撃した黄海の茂島防御隊などを視察し、「われわれの自主権が行使される地域に1発の砲弾でも落ちれば、速やかに壊滅的な反撃を加えよ」と指示したと報じた¹⁵。金第1書記は「敵がわれわれに少しでも手出しすれば、その機会を逃さず、全戦線に祖国統一の大進軍開始を命ずる」と言明したという。また「労働新聞」は8日付1、2面で、金第1書記が延坪島などでの韓国軍の配置状況を確認し、「精密攻撃の順序」を自ら定めたと紹介した¹⁶。

北朝鮮の祖国平和統一委員会は、国連安全保障理事会の制裁強化決議（3月7日採択）に対抗し、3月8日、南北不可侵に関する過去のすべての合意の全面破棄を宣言し、1992年に発効した南北非核化共同宣言の「全面白紙化」と板門店の南北直通電話の断絶を表明した¹⁷。

北朝鮮外務省は3月9日、報道官声明を出し国連安全保障理事会の制裁強化決議を「全面排撃する」とし「世界は決議の代価として、われわれの核保有国、衛星発射国の地位がいかにして永久化されるか、はっきりとみることになる」と主張した¹⁸。

米韓合同軍事演習「キー・リゾルブ」が3月11日から始まると、労働新聞は同日「（朝鮮戦争の）休戦協定が完全に白紙化された」と宣言した。板門店の南北連絡電話も同日遮断された¹⁹。

北朝鮮外務省報道官は3月16日談話を発表し「経済的恩恵を受ける取引の道具として核を保有したと考えるのはとんでもない誤り」とし「米国が敵視政策を放棄しない限り、われわれは米国と対話する考えはない」と言明した²⁰。「労働新聞」は3月17日、米国が軍事挑発を行なえば「侵略者の本拠地に対する核先制攻撃の権利を行使することになる。日本も決して例外ではない」とし「朝鮮半島で戦争の火花が散り自衛隊が介入しても、日本が無事だと思えば、それより大きな誤りはない」と指摘した²¹。

金正恩第1書記の立ち会いの下で3月20日、朝鮮人民軍が無人攻撃機による攻撃と巡航ミサイル迎撃の訓練を実施した。金第1書記は、挑発を受ければ「米に追従する国の関連施設も焦土化する命令を出す」と発言した²²。

朝鮮中央放送が3月21日午前9時半ごろ、「空襲警報」を発令し、約1時間後に解除した。訓練とみられたが、ラジオでの「空襲警報」は異例だった²³。

朝鮮人民軍最高司令部は3月26日声明を発表し、米本土や太平洋地域の米軍基地、韓国を攻撃対象とするミサイル部隊など全ての野戦砲兵部隊が「1号戦闘勤務態勢」に入るとした²⁴。

北朝鮮外務省が3月26日声明を出し「反米全面对決戦の最終段階に突入する」とした²⁵。

金正恩第1書記は3月29日午前0時半に戦略ロケット軍の作戦会議を緊急招集し「米の核による脅迫には無慈悲な核攻撃で応える」として、必要なときに米軍を攻撃できる「射撃待機状態」に入るよう指示した²⁶。

北朝鮮の原子力総局報道官4月2日、ウラン濃縮を含め、寧辺にある他の核施設の稼働を明言し、2007年の6ヵ国協議合意に基づき稼働を停止した寧辺の5000キロワット黒鉛減速炉を再稼働させると表明した²⁷。

北朝鮮の人民軍総参謀部スポークスマンは4月4日、「既にわれわれの最高司令部が内外に宣明した通り、強力な軍事の実戦対応措置を連続で取ることになるだろう」と警告。「千万軍民の団結した鉄の意志と小型化、軽量化、多種化されたわれわれ式の先端核攻撃手段で余すところなく粉碎するだろうし、これと関連したわが革命武力の無慈悲な作戦が最終的に検討、批准された状態にあることを正式にホワイトハウスとペンタゴンに通告する」と表明した²⁸。

4月に入ると、北朝鮮が新型中距離弾道ミサイル「ムスダン」や「スカッド」「ノドン」などのミサイルを日本海側に移動させたとの報道が出て、北朝鮮のミサイル発射に関心が集まった。

北朝鮮は4月18日国防委員会政策局声明を発表、米国や韓国との対話の条件として、①国連安全保障理事会の対北朝鮮制裁決議撤回②米韓合同軍事演習の停止③朝鮮半島周辺からの核兵器搭載可能な爆撃機撤収一を要求した²⁹。「労働新聞」は4月20日、米国とは「軍縮のための会談はあっても、非核化に関する会談は絶対はない」と主張、非核化への措置を対話の条件にする米国の主張は受け入れられず、核保有国として認めることを要求した³⁰。

朝鮮人民軍創建記念日の4月25日には錦繍山太陽宮殿前の広場で、将兵の行進を含む軍の式典が開催され、金正恩第1書記が閲兵し、航空機がデモ飛行したが、弾道ミサイルなどは姿をみせなかった³¹。

米韓両軍が3月から約2ヵ月間にわたり、韓国全土で展開してきた野外機動訓練「フォーイーグル」が4月30日に終了すると北朝鮮の挑発路線は収束し、対話路線へと切り替えていった。

米国防総省は3月18日、「フォーイーグル」に核搭載可能なB52戦略爆撃機が参加することを明らかにした。B52はグアムのアンダーセン空軍基地から訓練に参加し、核は搭載していなかったとした。さらに米軍は3月28日、核兵器を搭載可能で、レーダーに探知されにくいステルス機能をもつ長距離爆撃機B2をグアムから韓国に移動させ、韓国内の射撃場で仮想の標的を爆撃する訓練を実施した。

米韓合同軍事演習「フォーイーグル」は4月30日に終了した。しかし、これに引き続き、米韓両軍は5月4日から6日まで米原子力潜水艦「サンフランシスコ」や米イージス巡洋艦「シャイロー」、韓国軍のイージス艦「世宗大王」など十数隻が参加して対潜、対艦、

対空訓練や海上戦術機動訓練などの訓練を行なった。米側は韓国に入港した原潜を韓国メディアに公開した。米海軍の原子力空母ニミッツを中心とする空母打撃群が5月11日から13日まで釜山港に寄港し、同打撃群は5月13、14の両日、朝鮮半島周辺で米韓合同海上訓練を行なった。さらに、米空軍は5月8日に、北朝鮮を刺激するのを避けるために延期していた大陸間弾道ミサイル（ICBM）ミニットマン3の発射実験を5月21日に行なうと明らかにした。

北朝鮮はこうした動きに対して5月7日に「朝鮮人民軍西南前線司令部」の「報道」という形で警告を発した。同報道は「敵の挑発的な砲撃によって、わが方の領海にたった1発の砲弾でも落ちる場合、即時の反撃戦に進入せよ」などと激しい言葉だったが、北朝鮮は「前線司令部」という低いレベルでの批判に抑えた³²。

北朝鮮の祖国平和統一委員会スポークスマンは5月10日未明（午前3時56分）に談話を発表し、朴槿恵大統領と韓国政府を批判した³³。同日午後（午後3時40分）には外務省スポークスマンが談話を発表し、オバマ大統領と米国政府を批判した³⁴。これはオバマ大統領と朴槿恵大統領の5月7日（日本時間8日未明）の米韓首脳会談を批判するものであった。両談話は米韓首脳会談を激しく非難したが、しかし、こうした激しい攻撃にもかかわらず、祖国平和統一委の談話の最後は「諸般の事実は、正しい選択をしなければならない当事者はまさに南朝鮮の当局者であるということ物語っている。われわれは、現南朝鮮当局に対して忍耐力をもって注視している」という意味深長な言葉で結ばれた。

北朝鮮はこうした挑発路線を続けていたなかでも3月18日に平壤で「全国軽工業大会」を開催するなど挑発路線とは対照的な動きもみせていた³⁵。金正恩第1書記が「軽工業は人民生活向上の闘争の主力分野。重大な政治的事業だ」と演説し、20日から22日まで平壤で「全国人民消費品展示会」が開催された。

朝鮮中央通信は4月13日に「朝鮮半島の緊張状態の責任は米国にある」と題された論評で「米国の好戦狂らがわれわれのありもしない『挑発』をうんぬんして、2隻の原子力超大型空母であるニミッツ号とステニス号を朝鮮半島に近い水域に急派した。続いて、原子力潜水艦シャイアン号をまたもや朝鮮半島の周辺水域で奔走するようにして戦争の雰囲気極度に鼓吹している」とした³⁶。北朝鮮の公式メディアが、国際社会が北朝鮮のミサイル発射などを注視している時期に「ありもしない挑発」と言及したことはミサイル発射の意志がないのではともみられ、結局、北朝鮮はミサイル発射をしなかった。

5. 「経済建設」と「核開発」の並進路線

朝鮮労働党は3月31日、党中央委員会2013年3月総会を開き「経済建設」と「核開発」を同時に進める並進路線を決定した³⁷。

党中央委総会で打ち出した経済建設路線と核開発を同時進行させること自体は「新しい路線」ではなく、金日成主席も金正日総書記も行なったことである。金日成主席は1962年12月の党中央委総会でも「経済建設と国防建設を並行して進める」路線を採択している。金正日総書記も「先軍政治」と「強盛大国の大門を開く」ことを同時推進した。

金正恩政権の並進路線が、先代たちの路線と異なるのは、核兵器やミサイルという大量殺傷兵器の開発を通じて在来式武器の劣勢をカバーしようという発想が強まったことである。北朝鮮側発表にある「国防費を追加的に増やさなくても戦争抑止力と防衛力の効果を

画期的に高めることによって、経済建設と人民の生活向上に力を集中するのを可能にする」という認識はそういう発想に基づいている。非対称型の大量殺傷兵器の開発で、在来式武器などによる国防費負担を減らそうという方針だ。

党中央委総会は「先軍朝鮮の核兵器は決して、米国のドルと換えようとする商品ではなく、われわれの武装解除を狙う対話の場と交渉テーブルの上にあげて論議する政治的駆け引きや経済的取引の道具ではない」とし、国際社会が求める核の放棄をあらためて拒否した。

党の人事では、朴奉珠党部長を政治局員、玄永哲軍総参謀長、金格植人民武力部長、崔富一人民保安部長を政治局員候補に選出した。

翌4月1日に最高人民会議第12期第7回会議が開催され、経済改革派とされる朴奉珠元首相（党政治局員）を首相に再起用した³⁸。

朴奉珠首相は2002年7月の金正日総書記による経済改革の後の2003年9月に化学工業相から首相に起用され、当時の経済改革を主導した人物だ。しかし、軍や党保守派の攻撃にあい、2007年4月に首相を解任され、地方のピナロン工場の支配人にまで転落した。しかし、2010年8月には党第1副部長に復活し、金正恩氏が党中央軍事委員会副委員長になり後継者の座を確定した同年9月の第3回党代表者会では党中央委員候補になった。2012年4月の第4回党代表者会では、金慶喜政治局員が担当していた党軽工業部長の座に就いた。今回の人事は、ある意味では改革派経済閣僚の劇的な復活劇だった。

また、最高人民会議は核抑止力を「質、量ともに強化する」と明記した法令を採択し核保有を法制度化した。宇宙開発に関する法令も採択し「国家宇宙開発局」の設置を決定した。さらに、金正角前人民武力部長と李明秀前人民保安部長を国防委員から更迭し、金格植人民武力部長と崔富一人民保安部長を後任の国防委員に選出した。

6. 対話路線への転換

韓国全土で3月初めから2ヵ月にわたり展開してきた米韓合同野外機動訓練「フォールイーグル」が4月30日に終了すると、北朝鮮は挑発路線から対話路線に転換した。5月7日には日本海側に配置されていた「ムスダン」2基が発射台から撤去されたことが確認され、ミサイル部隊などに発令されていた「1号戦闘勤務態勢」も解除された³⁹。

米韓両国は「フォールイーグル」後にも、米空母「ニミッツ」が参加して5月13、14日に米韓合同海上訓練を行なうなどしたが、北朝鮮の対応は比較的自制されたものに終わった。

小泉純一郎元首相の政務秘書官を務めた飯島勲内閣官房参与が5月14日から17日まで訪朝した。金正恩第1書記の特使として崔龍海軍総政治局長が5月22日から24日まで訪中した。崔龍海軍総政治局長は習近平国家主席との会談で「関係各国と共に努力し、6ヵ国協議などさまざまな形式の対話と協議を通じて関連問題を適切に解決したい」と表明し、対話意志を示した。

金正恩第1書記は6月4日付でアピール文『『馬息嶺速度』を創造して社会主義建設の全ての戦線で新たな全盛期を開いて行こう』を発表し、「馬息嶺速度」の経済建設キャンペーンを開始した⁴⁰。

南北対話でも祖国平和統一委員会報道官は6月6日に「特別談話文」を発表し、開城工

業団地の正常化や中断している金剛山観光事業の再開を話し合う南北当局間会談を開催することを韓国に提案した⁴¹。

国防委員会スポークスマンは6月16日に「重大談話」（談話日付は15日）を発表し、米国に対し朝鮮半島の緊張緩和に向け前提なしで高官会談開催を提案した⁴²。北朝鮮は米国が核兵器を放棄するまで自分たちも核兵器を放棄しないと、核放棄の条件を「世界の非核化」としていたが、この重大談話では「朝鮮半島の非核化」が金日成、金正日総書記の遺訓であると「朝鮮半島の非核化」を目標とするという従来の主張に戻った。

さらに金桂冠第1外務次官が中国との戦略対話のために6月18日から22日まで訪中し、中国の張業遂外務次官と中朝戦略対話で「北朝鮮は6ヵ国協議を含むあらゆる形式の対話に参加し、核問題を平和的に解決することを望む」と表明した⁴³。

7. 「祖国解放戦争勝利60周年」

7月25日、平壤で、朝鮮戦争の戦死者らが眠る「参戦烈士墓」の完工式が行なわれた。この場には、5月12日に金正恩第1書記とともに朝鮮人民内務軍協奏団の公演を観覧して以来、公開活動に姿を現わしていない金慶喜党政治局員が約2ヵ月半ぶりに姿をみせた⁴⁴。金慶喜党政治局員は7月8日の金日成主席の命日にも姿をみせず、その後、危篤説や死亡説が流れるなどしていたが、この場で健在が確認された。

北朝鮮の2013年の最大の行事とされた7月27日の「祖国解放戦争勝利60周年」（朝鮮戦争休戦協定締結60周年）では、大規模な軍事パレードが実施された⁴⁵。しかし、新兵器などは登場せず、崔龍海軍政治局長が金正恩第1書記の委任を受けた演説でも「核兵器」や「核保有国」への言及はなく、「経済文化建設と人民生活向上を焦眉の課題としているわれわれにとって平和的環境はこの上もなく貴重なものである」と言明した。崔龍海軍総政治局長は同時に「現実がみせつけているように平和を望むならば戦争の準備をしなければならない。全体人民軍将兵と人民は銃の上に平和があることを銘記し、国の防衛力を強化し、いかなる外国勢力の侵攻も断固として撃退できるようにしっかりと準備し、戦闘準備態勢を堅持しなければならない」とも述べ、和戦両様の姿勢を示した。

黒と黄色の放射能標識とみられるマークを付けたバッグを体の前面に付けた兵士約20人を乗せた車両3台も登場した。北朝鮮は今回の軍事パレードや演説では核兵器や核保有国であることには触れていないが、原子力関連の特殊部隊が存在することをアピールしたものとみられる

また、この行事に参加するため中国の李源潮国家副主席が7月25日から28日まで訪朝した。軍事パレードでは金正恩第1書記は演説をせず、式典の間中、ずっと李源潮氏の横に立ち、李氏に説明をしたり、質問に答えたりした。軍事パレードの最高司令官というよりは、李源潮氏に対するホストぶりがテレビで内外に報じられた。李氏の横で破顔大笑する金正恩第1書記の姿が北朝鮮国内だけでなく世界に発信され中朝関係の修復を演出した。

翌26日には李源潮副主席とともに平壤のメーデースタジアムで開催された朝鮮戦争休戦60年の中央報告大会に出席し、その後に上演された芸術公演・マスゲーム「アリラン」も一緒に観覧した。27日の勝利記念館の開館式にも李源潮副主席とともに出席した。

8. 「党の唯一思想体系確立のための10大原則」改正

韓国メディアは2013年8月、北朝鮮が同6月に住民統制の規範として活用している「党の唯一思想体系確立のための10大原則」を39年ぶりに改正したと伝えた⁴⁶。北朝鮮ではこの「10大原則」は憲法や党規約以上に住民を統制する規範として活用されている。

北朝鮮は2010年9月の第3回党代表者会で朝鮮労働党規約を改正し、2012年4月、2013年4月に憲法を改正し、今回「10大原則」を改正したことで、金正日総書記を金日成主席と同格化し、それを金正恩第1書記への忠誠へと活用するという規範の制定作業が一応完了したものとみられる。

今回の改正ではこれまでの「10条65項」から「10条60項」に改正され、10大原則の題名自体が「党の唯一思想体系確立のための10大原則」から「党の唯一領導体系確立のための10大原則」と変更になった。

また「金日成」を「金日成・金正日」とし、「金日成革命思想」を「金日成・金正日主義」とし、第1条の「社会主義、共産主義の偉業の完成のために」は「主体革命偉業の完成のために」と改正され、共産主義などの用語が削除された。

第3条4項の「首領、金日成同志の肖像画、石膏像……を丁寧に奉じ」が「白頭山絶世偉人たちの肖像画、石膏像……を丁寧に奉じ」と改正され、第10条2項に「わが党と革命の命脈を白頭の血統として永遠に引き継がれ」と明記し、北朝鮮の権力世襲を金正恩第1書記の3代世襲だけでなく、4代でも可能にした。

また第3条に「党の権威を絶対化し決死擁護しなければならない」とか、第4条に「党の路線と政策で徹底し武装しなければならない」と強調した。第4条8項では「偉大な首領、金日成同志の教示と個別的な幹部たちの指示を厳格に区別し」とあったが、第4条7項の「党の方針や指示と個別的な幹部たちの指示を厳格に区別し」と改正した。また第9条の「偉大な首領金日成同志の唯一的領導の元で」を「党の唯一的領導の元で」に改正し、幹部選抜の尺度として明示されていた第9条7項の「首領に対する忠実性」を「党に対する忠実性と実力」と改正した。

これらはいずれも金正恩時代の国家運営の中心を「党」にしていることを示すものだ。「首領」を「党」に書き換えた部分は、首領への忠誠を弱体化させ、党が首領に代わる役割を果たすことにもつながりかねないが、「金正恩第1書記を中心とした党」が繰り返し強調されているなかでは金正恩第1書記への忠誠とみるべきであろう。

金正恩時代の最大の特徴は党中心主義、党の機関決定重視の流れであり、10大原則の改正もこうした流れのなかで理解すべきであろう。

それは宗派（セクト）主義や幹部批判の部分の改正とも連動している。第6条には「個別的な幹部たちに対する幻想やごますり、偶像化を排撃し、個別的な幹部の職権におぼれ盲従盲動したり、非原則的に行動したりする現象を徹底的になくさなければならない」との内容が加えられた。また、「党の統一団結を破壊し、害を与える宗派主義、地方主義、家族主義をはじめとするあらゆる反党的要素と同床異夢、陽奉陰違（面従腹背）の現象に反対し、闘争しなければならない」との条項も盛り込まれた。

この10大原則に新たに書き込まれた「同床異夢、陽奉陰違（面従腹背）」という党内反党分子への表現はその後の張成沢氏の粛清の際に使用され注目を受けることになった。

さらに「古い事業方法とやり方をなくさなければならない」とした第7条には、官僚主

義、主観主義、形式主義など排斥すべき対象のトップに「勢道」が加わった。朝鮮王朝では「勢道政治」とは、王の信任と直接的な委任を受ける形式で側近たちが行なった政治形式である。この排撃すべき勢力のトップに「勢道」が挙げられたことも、張成沢氏の粛清との関連性で注目される。10 大原則の改正で「同床異夢、陽奉陰違（面従腹背）勢力」や「勢道」を排撃対象に明記したことは、当時から張成沢氏の粛清作業が進んでいた可能性を示唆するものかもしれない。10 大原則の改正は粛清の伏線だった可能性がある。

第9条は「全ての事業を党の唯一的領導の下で組織、進行し、政策的問題は党中央の結論によってのみ処理するという秩序、規律を確立しなければならない」とした。「党中央」とは金正恩第1書記であり、ここで党への忠誠は党中央への忠誠、金正恩第1書記への忠誠へと誘導される。

また10大原則の序文の部分に「核武力を中枢とする軍事力と自立経済をもった威力を轟かせるようになった」と新たに挿入し、核保有国であることを強調した。北朝鮮は2012年4月の最高人民会議第12期第5回会議で憲法を改正し、序文に「核保有国」であることを明記し、先述のように2013年3月の労働党中央委員会全体会議では、経済開発と核開発の並進路線を採択した

9. 「先軍節」制定と「先党路線」

北朝鮮は最高人民会議常任委員会の8月26日付政令で8月25日の「先軍節」を2014年から祝日にするとした。金正恩政権は金正日総書記が1960年8月25日に金日成主席とともに近衛ソウル柳京守第105戦車部隊を訪問した日を先軍政治のスタートとしているが、この日を祝日にする事で金正恩政権も「先軍路線」を歩むことを明確にした。朝鮮中央通信は「意義深いこの日（1960年8月25日）があつて、銃で開拓されて前進し勝利してきた朝鮮革命の歴史と伝統が揺るぎなく継承されるようになり、先軍の道に沿って上昇一路をたどるチュチェ革命の新時代、偉大な先軍時代が開かれるようになった」と報じた。

金正恩第1書記はその「先軍節」である8月25日に「金正日同志の偉大な先軍革命思想と業績を永遠に輝かそう」という「談話」を発表した⁴⁷。この談話は「金正日同志の卓越した先軍革命指導があつたがゆえに、人民軍が無敵必勝の革命強兵になり、わが国が人工衛星製作・打ち上げ国、核保有国となって白頭山強国の威容を高くとどろかすことができた」と事実上の長距離弾道弾の発射である人工衛星打ち上げや核保有を金正日総書記の業績として称えた。

しかし、この談話はその一方で「党の指導は人民軍の生命であり、党の指導を抜きにしては人民軍の威力について語ることはできません。人民軍の総体的方向はただひとつ、わが党が指し示す方向に銃口を向けてまっすぐに進むことです。われわれの銃剣は、永遠に党とその偉業をしっかりと保障する磐石の支持点とならなければなりません」と「党の指導」は「軍の生命線」と強調した。

さらに「人民軍将兵は、いかなる試練に直面し、情勢がどう変わろうとも、ただ党と首領だけを思い、党と首領を決死擁護するというひとつの思想、ひとつの覚悟で胸を燃やさなければなりません。人民軍軍人はわが党の革命思想で武装し、命は捨てても革命の赤旗、チュチェの党旗をあくまで守るという確固たる信念をもたなければなりません」と強調した。軍の使命は「党と首領」を、命を賭して擁護することだとしたのであり、ここで強調されたのは「党」の「軍」に対する優位である。

談話は「革命勝利の最も重要な保証は、革命の参謀部である党を強化し、党のまわりに軍隊と人民をひとつに結束して革命の主体を打ち固めることです」と指摘した。党を強化し、党のまわりで軍と人民が一致団結することが革命勝利の担保であるとした。

「労働新聞」は建国記念日前日の9月8日の論説で「これまでわが国と敵対関係にあっても、われわれの自主権を尊重し、友好関係を発展させようとする国とは関係を改善する」と主張した。

北朝鮮では建国65周年の9月9日には労働赤衛軍による軍事パレードが行なわれたが、兵器などのパレードは小規模なものだった。朴奉珠首相が行なった慶祝報告でも核兵器や核保有国には言及されず自制されたものだった⁴⁸。

「労働新聞」は11月21日、各軍種・軍団などの政治委員、陸軍、海軍、航空・反航空軍、戦略ロケット軍、各級軍事学校などの武力機関の保衛幹部らを集めた「朝鮮人民軍第2回保衛活動家大会」が平壤の4・25文化会館で開かれたと報道した⁴⁹。金正恩第1書記は綱領的な書簡「主体革命偉業遂行の歴史的転換期の要求に合致するように人民軍保衛事業をさらに改善、強化しよう」を伝達した。同大会が開催されるのは1993年10月以来20年ぶりであった。「労働新聞」は「討論者らは、敬愛する最高司令官同志が送った歴史的な書簡を胸に深く刻み、人民保衛機関に最高司令官同志の唯一的領軍体系を徹底的に確立し、党と首領、わが思想と制度、革命の銃を保衛する聖なる闘争の道で自らの前に委ねられた使命と任務を立派に遂行するという燃えるような決意を固めた」と報じた。ここでも軍の保衛要員に「党と首領」への忠誠を求めた。

10. 軍の再編

北朝鮮では2012年7月に金正恩第1書記の最側近の1人とみられた軍の実力者、李英鎬総参謀長が突然解任されるという事件が起きた。その後、金正日時代の軍長老たちが次々に軍の一線から退くという現象が顕著になった。

また、軍の中核ポストである総参謀長、人民武力部長、作戦局長などのポストにあった軍人たちが頻繁に交代し、また軍幹部が突然、降格されたり、昇格したりする人事が行なわれた。こうした現象を金正恩第1書記が軍を掌握するための軍部再編とみるのか、金正恩第1書記を支える軍部の不安定さを示すものとみるかは視点の差によって大きく見方が異なった。

以下は軍と公安・警察機関の要職の異動の最近の変遷をまとめたものである。

◎北朝鮮軍部要職の変遷

軍総政治局長	趙明禄 (1995・10) →空席 (2010・11 趙明禄氏死亡) →崔龍海 (2012・4 第4回党代表者会) →黄炳瑞 (2014・4・26 党中央軍事委?、就任確認は2014・5)
軍総参謀長	金格植 (2007・4) →李英鎬 (2009・2) →玄永哲 (2012・7) →金格植 (2013・5) →李永吉 (2013・8 と推定)
人民武力部長	金永春 (2009・2) →金正角 (2012・4 第4回党代表者会) →金格植 (2012・11 ごろ 2012・12 に就任確認) →張正男 (2013・5 朝鮮人)

	民内務軍協奏団の公演観覧報道で確認)
軍総参謀部作戦局長	李明秀（1997・4）→金明国（2007・4）→崔富一（2012・4と推定）→李永吉（2013・2と推定）→辺仁善（2013・8と推定）
人民保安部長	朱霜成（2004・7）→李明秀（2011・4）→崔富一（2013・2）
国家安全保衛部長	空席（金正日時代は空席で金正日総書記が事実上兼務、2009・9から禹東則が第1副部長）→金元弘（2012・4）

今年3月31日の党中央委員会2013年3月総会では、玄永哲軍総参謀長（当時）、金格植人民武力部長（同）、崔富一人民保安部長を政治局員候補に選出した⁵⁰。玄永哲軍総参謀長の前任者の李英鎬総参謀長が党政治局常務委員であったことを考えれば、玄永哲総参謀長が党政治局員候補でしかないということは2段階低い処遇である。

金正恩第1書記の現地指導ではこれまでほとんど公式報道に名前が出たことのないような上將や中將クラスの軍人が同行し、新たな側近勢力が形成されつつある。その先頭に立っているのが李永吉軍作戦局長と張正男人民武力部長だ。この2人は8月28日の報道で大將昇格が確認された⁵¹。また、北朝鮮メディアは8月28日に金正恩第1書記がサッカー競技を観覧した記事で李永吉大將を張成沢国防委副委員長と張正男人民武力部長の間で報じ、総参謀長就任の可能性を示唆した⁵²。朝鮮中央通信は10月10日、金正恩第1書記の錦繡山太陽宮殿訪問を報じた際、同行した李永吉氏を朝鮮人民軍総参謀長の肩書で報じ、李永吉軍作戦局長が金格植軍総参謀長の後任として総参謀長に就任していることを確認した⁵³。

金正恩第1書記は政権をスタートして約2年間に軍の再編を大きな抵抗なく実施し、自らの側近勢力に変えていった。先軍を掲げながらも、「軍への党の指導」が強調され、党が復権し、党の機関主義が定着しつつある。

11. 張成沢氏の肅清、処刑

韓国の情報機関・国家情報院は12月3日、国会情報委員会に対して北朝鮮の張成沢党行政部長の側近である李龍河党行政部第1副部長、張秀吉党行政部副部長が11月下旬に公開処刑され、張成沢副委員長の動静も把握できず失脚した可能性が高いと報告した⁵⁴。

韓国の国家情報院のこの報告によって「張成沢氏失脚」の可能性が表面化した。

張成沢氏の動静は11月6日に訪朝した日本のアントニオ猪木氏と会談して以来、その活動を伝える公式報道が途絶えていた⁵⁵。

張氏は金正日時代に政治的な浮沈を繰り返したが、金正日総書記が2008年夏に脳卒中で健康悪化に陥って以来、金正恩第1書記への権力継承に大きな役割を果たしてきた。金正日総書記が2011年12月17日に死亡し、金正恩氏が軍幹部などを連れて12月24日に3回目の弔問をした際に、張成沢氏は大將の階級章を付けた軍服姿で同行し、軍の階級も取得していることが明らかになった。

2012年4月の第4回党代表者会では党政治局員に選出された。同年11月には国家体育指導委員会の委員長に就任し、北朝鮮の序列発表でも政治局員のトップに挙げられるようになり、政治局常務委員のすぐ後に位置した。2012年末は政治局常務委員と同じような地位にあるのではという見方も出た。

しかし、2013年に入ると、張成沢氏の政治的影響力に陰りがみえ始めてきた。ラヂオプ

レスの集計では、金正恩第1書記の2012年の動静報道は152件で、これへの同行回数では張成沢氏がトップで108回を数えた。崔龍海軍総政治局長が2位で88回だった（韓国統一院集計では、公開活動回数151件で同行トップは張成沢氏で106回、第2位は崔龍海氏が85回）。しかし、ラヂオプレスによると、2013年は金正恩第1書記の動静報道は229件（朝鮮中央テレビで判明した16件を含め）で、同行回数はトップが崔龍海氏が153回、2位は黄炳瑞党組織指導部副部長で62回、第3位が張成沢氏で56回と、張成沢氏は大幅に回数を減らした（韓国統一院集計では、金正恩第1書記の動静報道は209回で、同行回数は崔龍海軍総政治局長がトップで153回、張成沢氏は3位だったが52回）。同行回数が権勢を計るバロメーターとは言えないが、ひとつの指標であり、張成沢氏の権勢が今年に入り弱まっていたことを示した。

北朝鮮の国営朝鮮中央テレビが2013年12月7日放送した金正恩第1書記の軍部隊視察の記録映画で、以前の放送では映っていた張成沢党行政部長の姿が全ての場面で消された。これで張成沢氏の失脚は確定的になった⁵⁶。

北朝鮮の朝鮮労働党は12月8日に政治局拡大会議を開き、張成沢党政治局員（国防委副委員長、党行政部長、国家体育指導委員会委員長）を全ての職務から解任し、党を除名する決定を下した⁵⁷。

さらに、北朝鮮のメディアは12月13日早朝、北朝鮮の公安機関である国家安全保衛部の特別軍事裁判が12日に行なわれ、張成沢氏が「国家転覆陰謀の極悪な犯罪を働いた」として死刑に処するとの判決を下し、即時、執行されたと報じた。党政治局拡大会議での解任、除名決定からわずか4日目に処刑されたことで内外に大きな衝撃を与えた⁵⁸。

張成沢氏が金正日総書記の実妹、金慶喜党政治局員の夫であり、金正恩第1書記の叔父で、金正恩政権を支える最側近とされていただけに、その衝撃は大きかった。

党政治局拡大会議では張成沢氏の3つの罪状が挙げられた。

第1は「反党・反革命・宗派（分派）行為」である。拡大会議は「張成沢は表では党と首領に従うふりをし、裏では同床異夢、陽奉陰違（面従腹背）の分派的行為をこととした」と決めつけ「党と首領の高い政治的信任によって党と国家の責任ある位置に登用されたが、人間の初歩的な道徳・信義と良心さえ投げ捨て、金日成主席と金正日総書記を千年、万年高く仰ぎ、いただく事業に顔を背け、各面から妨げる背信行為を働いた」とした。

第2は経済政策とも関連する問題である。拡大会議は「張成沢は、朝鮮労働党が提示した内閣中心制、内閣責任制の原則に違反して国の経済活動と人民の生活向上に莫大な支障をきたした」と非難した。

第3は女性問題などに関する「不正腐敗」である。拡大会議は「張成沢は、権力を乱用して不正腐敗行為をこととし、多くの女性と不当な関係を持ち、高級食堂の裏部屋で飲食三昧におぼれた」と非難した。

党政治局拡大会議の様子は朝鮮中央テレビなどでも放映された。この放映された映像では奇妙な事実が判明した。

この政治局拡大会議では壇上に金正恩第1書記ら15人が座り、残りは一般席に座った。通常は党政治局を構成する党政治局常務委員、党政治局員、政治局員候補が壇上に上がり、オブザーバーが一般席という形であろう。党政治局のメンバーは20人を超えるが、壇上に上がったのは15人であり、金京玉党組織指導部第1副部長は党政治局員候補でもないが壇

上にいた。一方、姜錫柱副首相や金永春国防委副委員長は党政治局員だが壇上にはなく、一般席にいた。

壇上にいたのは前列には向かって左から朴道春、金己男、朴奉珠、金永南、金正恩、崔龍海、金元弘、崔泰福、金養建の各氏、後列には趙然俊、郭範基、金永日、金平海、文景德、金京玉各氏の計15人である。

拡大会議では金己男党書記、朴奉珠首相、趙然俊党組織指導部第1副部長、李萬建平安北道党責任書記が演壇上で張成沢氏を批判した。さらに一般席で金永春国防委員会副委員長（党政治局員、党部長）、楊亨燮最高人民会議常任委副委員長（党政治局員）、姜錫柱副首相（党政治局員）が手を挙げている写真が公開され、これはこの3人が張成沢氏を批判するための発言を求めている様子とみられる。

一方、国家安全保衛部での特別軍事法廷では、党政治局拡大会議で指摘された3つの罪状よりもさらに重い「国家転覆陰謀（クーデター企図）」の罪状が指摘された。

判決を報じた報道は、張成沢氏は各分野で「小王国」をつくり「内閣総理のポストに就く妄想をして自分の部署が国の重要経済部門をすべて掌握して内閣を無力化させ国の経済と人民の生活を收拾できない破局に追い込もうと画策した」とした。

さらに2009年に実施したデノミの失敗も張成沢氏の責任とした。

これに先立ち、朝鮮中央通信は11月30日、金正恩第1書記が北朝鮮北部の両江道にある「三池淵革命戦跡地」を視察したと報じた⁵⁹。「三池淵革命戦跡地」は金日成主席の革命闘争の地とされる。「労働新聞」は12月11日付論説で、金正恩第1書記が三池淵革命戦跡地を視察したことに言及した。張成沢氏という固有名詞には言及せず、かつて金正日総書記が1960年代に「いまや革命に背信した者らと決別する時になった。われわれは、どんなことがあろうとも、赤旗を最後まで守るであろう」と語ったと紹介し「三池淵の強行軍に就いた敬愛する元帥（金正恩第1書記）の偉大な胸から発せられたものも、まさにこのような鉄石の信念であり、意志だった」と指摘した。張成沢氏の粛清を最終的に決意したのが、この「三池淵革命戦跡地」視察であったことを強く示唆した⁶⁰。

この視察には、金元弘国家安全保衛部長、金養建党統一戦線部長、韓光相党中央委部長、朴泰成、黄炳瑞、金炳鎬、洪ヨンチル、馬園春各党中央委副部長が同行した。この視察には崔龍海軍総政治局長は同行していない。今回の事件を捜査している国家安全保衛部の金元弘部長が同行者のトップであることは注目すべきであり、金正恩政権を支える勢力として、この8人と党政治局拡大会議で壇上に座った15人に注目すべきであろう。金元弘、金養建両氏は両方に含まれており、実際には21人である。

2012年12月の金正日総書記死亡1年では、直前の12月12日に人工衛星「光明星3号2号機」の打ち上げが成功し、金正日総書記の遺訓を貫徹したという興奮の余波のなかで追悼行事が行なわれた。しかし、2013年は12月8日の党政治局拡大会議での張成沢氏の粛清、同12日の死刑判決と処刑という衝撃の直後に追悼行事が行なわれた。

12月17日に行なわれた中央追悼大会では金正恩第1書記は終始、無表情だった。

党機関紙「労働新聞」が12月18日付で伝えた中央追悼大会の政治序列は以下の通りだ⁶¹。

- (1) 金正恩第1書記
- (2) 金永南最高人民会議常任委員会委員長（党政治局常務委員）
- (3) 朴奉珠首相（党政治局員）

- (4) 崔龍海軍総政治局長（党政治局常務委員）
- (5) 李永吉軍総参謀長
- (6) 張正男人民武力部長
- (7) 黄順姫抗日革命闘士（革命博物館長）
- (8) 金鉄万抗日革命闘士
- (9) 金己男党書記（党政治局員）
- (10) 崔泰福党書記（党政治局員）
- (11) 朴道春党書記（党政治局員）
- (12) 金永春党部長（党政治局員、国防委員会副委員長）
- (13) 楊亨燮最高人民会議常任委員会副委員長（党政治局員）
- (14) 李勇武国防委副委員長（党政治局員）
- (15) 姜錫柱副首相（党政治局員）
- (16) 呉克烈国防委副委員長（党政治局員候補）
- (17) 金元弘国家安全保衛部長（党政治局員）
- (18) 金養建党統一戦線部長（党政治局員候補）
- (19) 金永日党国際部長（党政治局員候補）
- (20) 金平海党書記（党政治局員候補）
- (21) 郭範基党書記（党政治局員候補）
- (22) 文景德平壤市党責任書記（党政治局員候補）
- (23) 崔富一人民保安部長（党政治局員候補）
- (24) 金昌燮国家安全保衛部政治局長（党政治局員候補）
- (25) 盧斗哲副首相兼国家計画委員長（党政治局員候補）
- (26) 趙然俊党組織指導部第1副部長（党政治局員候補）
- (27) 崔永林最高人民会議常任委員会名誉副委員長（前首相）
- (28) 玄哲海前人民武力部第1副部長
- (29) 李炳三人民内務軍政治局長（党政治局員候補）
- (30) 朱奎昌党機械工業部長（党政治局員候補）
- (31) 金永大朝鮮社会民主党委員長（最高人民会議常任委員会副委員長）

最も注目された張成沢氏の妻の金慶喜党政治局員は中央追悼大会にも錦繡山太陽宮殿訪問にも姿をみせなかった。健康状態や、夫が肅清、処刑されたことで公式の場に出ることを控えたとみられる。しかし、金慶喜氏は12月14日に発表された金国泰党政治局員の国家葬儀委員会の名簿では張正男人民武力部長に次いで序列6位（葬儀委員に名前を入れていない金正恩氏を含めれば序列7位）に名前を連ね、政治的に健在であることが確認された⁶²。中央追悼大会の序列では7位に黄順姫・朝鮮革命博物館長がランクされたが、これは実際には金慶喜党政治局員の序列であろう。今回の張成沢氏の肅清は金正恩第1書記の決定だけでは不可能で、金慶喜氏の決断もあったとみられる。

張成沢氏の肅清は党組織指導部と国家安全保衛部の主導で行なわれたとみられる。張成沢氏肅清の背景には張成沢氏と党組織指導部の長年の葛藤があったとみられる。また、死刑を決めた裁判が国家安全保衛部の特別軍事法廷であったことをみても、張成沢氏への捜

査は国家安全保衛部が主導的な役割を果たしたとみられる。

12. まとめ

▽最高指導者の権力強化

金正恩政権が発足した際に、多くの研究者や専門家には金正恩氏がまだ30歳前後の何の実績も経験もない指導者であることから、金正恩政権における最高指導者のリーダーシップについて疑問の声が多かった。

また、北朝鮮が通常の社会主義国家のような党中心の国家運営になるという見方や、朝鮮時代のように「勢道」が実権をもつ側近政治になるのではという見方もあった。筆者は父や祖父のような絶対的な独裁者ではない最高指導者として「象徴首領」のような存在になるのではという予測をした。ある程度の期間を経て金正恩氏に資質がなければ実態的に党中心国家になり、資質があれば父や祖父のような「首領」に近づいていくと考えた。

しかし、金正恩政権が発足して2年が経過し、われわれの予測をはるかに超えるスピードで最高権力者のリーダーシップが強化されているように見える。

「労働新聞」は12月30日、張成沢氏粛清後の金正恩第1書記の最高司令官就任2周年にあたっての社説で「敬愛する金正恩同志を団結の唯一中心、領導の唯一中心として高く奉じ、元帥の周りに思想意志的にかつ道德義理的にさらに高く固く団結すべきである」とし「それが誰であれ、敢えて党に挑戦して、白頭の大業を阻もうとするなら、革命の赤い刃物、無慈悲な鉄槌によって断固懲罰するべきである」と強調した。金正恩政権2年で現われたのは最高指導者の「唯一領導體系」の強化であり、それに反抗する勢力は「断固懲罰する」という統治強化だった。

▽党組織指導部と国家安全保衛部

2012年7月に軍の最側近であった李英鎬軍総参謀長を粛清し、その後約1年半を経て金正日時代の軍の実力者を実質的に第1線から退かせ、軍では崔龍海軍総政治局長、李永吉総参謀長、張正男人民武力部長の3トップ体制で再編が進んだ。金正恩第1書記が軍部隊訪問などに同行する軍幹部にはこれまで北朝鮮の公式報道などには名前が出てこなかった上將や中將クラスの新たな軍幹部が新側近勢力として台頭している。

そして2013年12月には自らの叔父である張成沢党行政部長を粛清、処刑した。党における最側近の張成沢氏の粛清、処刑は金正恩第1書記の親政体制の強化を意味する。

2011年12月の葬儀では、金正日総書記の遺体を乗せた霊柩車の右側に金正恩氏、張成沢国防委副委員長、金己男党書記、崔泰福党書記が、左側に李英鎬総参謀長、金永春人民武力部長、金正角軍総政治局第1副局長、禹東則国家安全保衛部第1副部長が囲んだ。

軍では李英鎬総参謀長は粛清、金永春人民武力部長は党部長に転出、金正角軍総政治局第1副局長は人民武力部長を経て金日成軍事総合大学総長に転出し、禹東則国家安全保衛部第1副部長は健康問題で引退した。党でも張成沢氏が粛清、処刑され、残るのは金己男、崔泰福両書記だ。しかし、金己男書記は84歳、崔泰福書記は83歳である。序列2位の金永南最高人民会議議長は85歳だ。党に残った長老グループには権力欲はなく、その高齢のため今後、徐々に権力の一線から退いていくであろう。

金正恩政権を実質的に支える後見人勢力は叔母の金慶喜党政治局員とその夫の張成沢国

防委副委員長、李英鎬総参謀長、崔龍海軍総政治局長とみられたが、李英鎬総参謀長と張成沢国防委副委員長が粛清され、残るは金慶喜党政治局員と崔龍海軍総政治局長だ。

金慶喜党政治局員は金日成主席の娘であり、金正日総書記の実妹である。「白頭の血統」の純潔を政権の思想的基盤とする北朝鮮で、金慶喜氏の失脚はあり得ない。しかし、健康不安を抱えている。

李英鎬、張成沢両氏の粛清で、相対的に崔龍海軍総政治局長の比重は高まるとみられる。だが、張成沢氏粛清でみられたように、最高指導者に挑戦する勢力は排除されるため、その権勢拡張にも限度があろう。

そうしてみると、金正恩政権における金正恩第1書記のリーダーシップは外部社会の予想を超えて強化されているとみるしかない。もちろんそれを支えるのは朝鮮労働党である。

朝鮮労働党の核心部署である組織指導部の権限は今後さらに強くなり、社会統制では張成沢氏粛清を実行した国家安全保衛部の力が拡大することが予想される。

▽労働党時代

金正恩時代の最大の特徴は党の復権であり、党機関主義である。金正恩政権になり重要な決定は党政治局会議で行なわれている。張成沢氏を粛清した12月の党拡大会議は金正恩政権になっての党政治局会議としては5回目だ。

第1回は2011年12月30日に開催された党政治局会議で、金正恩氏を最高司令官に「高く奉じた」。第2回は2012年7月15日の政治局会議で、李英鎬総参謀長をすべての職務から解任した。第3回は同年11月4日に開催した党政治局拡大会議で、国家体育指導委員会を設立し、張成沢氏を同委員長に選出した。第4回は2013年2月11日に開催した政治局会議で、「建国65周年と祖国解放戦争勝利60周年を勝利者の祭典にすることについて」を採択し建国65周年と朝鮮戦争休戦60周年に向けた方針を決定した。

そして、第5回が今回の政治局拡大会議だ。張成沢氏の粛清を党政治局拡大会議で決定したということは、今後も権力の決定機関が党であることを示すものだ。

一部で軍部の影響力強化などの現象が起きるのではという意見もあるが、政権運営の核心は党であり、今後も重要方針は機関決定で行なわれることを示した。

党中心主義を示すものとして現在の朝鮮労働党政治局の構成をみてみよう。

◎朝鮮労働党政治局

政治局常務委員	金正恩党第1書記、党中央軍事委員長、国防委第1委員長
	金永南最高人民会議常任委員長
	▼崔永林前首相（2013年4月1日の最高人民会議で最高人民会議常任委名誉副委員長に。事実上の引退。今後、朴奉珠首相の党政治局常務委員への起用があるのかどうか）
	崔龍海軍総政治局長
政治局員	▼張成沢国防委副委員長、党行政部長、大将（2013年12月8日解任、

	処刑)
	金慶喜党書記（組織担当）、大将 金己男党書記、党宣伝扇動部部長
	崔泰福最高人民会議議長、党書記
	朴道春党書記（軍需担当）、国防委員
	▼金国泰党中央委検閲委員長（2013年12月死亡）
	金永春党軍事部長、国防委副委員長、次帥
	楊亨燮最高人民会議常任委副委員長
	李勇武国防委副委員長、次帥
	▼玄哲海前人民武力部第1副部長、次帥
	金元弘国家安全保衛部長、党中央軍事委員、国防委員、大将
	▼李明秀前人民保安部長、大将
	▼金正角元人民武力部長、金日成軍事総合大学総長、次帥
	朴奉珠首相（2013年4月1日）
政治局員候補	
	呉克烈国防委副委員長、大将
	金養建党統一戦線部長
	金永日党国際部長、党書記
	金平海党部長（幹部）、党書記
	朱奎昌党機械工業部長、党中央軍事委員、上将
	郭範基党計画財政部長、党書記
	金昌燮国家安全保衛部政治局長
	文景德党書記、平壤市党責任書記
	李炳三朝鮮人民内務軍政治局長、上将
	盧斗哲副首相、国家計画委員長
	趙然俊党組織指導部第1副部長
	太宗秀咸鏡南道責任書記
	▼玄永哲元総参謀長（→第5軍団長へ転出）
	▼金格植前軍総参謀長（政治局員候補就任時は人民武力部長）
	崔富一人民保安部長、党中央軍事委員、大将

▼は事実上解任されたか引退した可能性

党政治局は2013年3月31日開催の党中央委員会3月総会の時点で、常務委員4人、政治局員14人、政治局員候補15人と推定され、翌4月1日の最高人民会議で崔永林前首相が最高人民会議常任委名誉副委員長に就任したことは党政治局からの事実上の引退とみられ、現在は党政治局常務委員は3人とみられる。

党政治局では人民軍の現職の制服幹部は崔龍海軍総政治局長、金元弘国家安全保衛部長、李炳三人民内務軍政治局長、金昌燮国家安全保衛部政治局長、崔富一人民保安部長である。

崔龍海軍総政治局長はもともとは党人で軍人ではない。政治局員の玄哲海前人民武力部第1副部長、李明秀前人民保安部長 金正角元人民武力部長はその後の序列発表などからみると現在は政治局員の座にない可能性が高い。玄永哲元軍総参謀長は第5軍団長に転出し、金格植氏は軍総参謀長を李永吉総参謀長に譲り、政治局員候補の座にない可能性が高い。軍出身の長老という範疇では金永春党国防委副委員長、李勇武国防委副委員長が政治局員、吳克烈国防委副委員長・政治局員候補がいるが現在は軍の一線にはいない。金正日時代に比べると党政治局における軍部の比重は明確に低下している。

一方、北朝鮮軍部における党人の進出と金正日時代の軍幹部の去就はどうであろうか。

◎北朝鮮軍部幹部の状況

共和国元帥	金正恩・最高司令官、国防第1委員長、党中央軍事委員長 党第1書記
元帥	李乙雪・元護衛司令官
次帥	金永春・国防委副委員長 党部長
	▼金正角・金日成総合軍事大学総長（元人民武力部長）
	李勇武・国防委副委員長
	▽崔龍海・軍総政治局長、党政治局常務委員
	▼玄哲海・前人民武力部第1副部長兼後方総局長
大将	▼金格植・前軍総参謀長
	▽金慶喜・党書記、党政治局員
	▽金京玉・党組織指導部第1副部長
	金基善・軍総政治局副局長
	▼金明国・元軍総参謀部作戦局長
	金元弘・国家安全保衛部長
	▼金允心・元海軍司令官
	▼李明秀・前人民保安部長、党政治局員（事実上退任の可能性）
	李炳哲・軍航空・反航空軍司令官
	▽朴道春・党書記（軍需産業担当）、党政治局員
	朴在京・軍総政治局副局長
	金昌燮・国家安全保衛部政治局長
	▼呂春錫・元金日成総合軍事大学総長
	吳克烈・国防委副委員長
	▼禹東則・元国家安全保衛部第1副部長（健康問題で引退か）
	尹正麟・軍護衛司令官
	▽張成沢・国防委副委員長（粛清、処刑）
	▼鄭明道・元海軍司令官
	▼鄭昌烈・人民武力部副部長、2010・9 党中央委員候補解任
	▼鄭浩均・元軍砲兵司令官

	▼玄永哲・前軍総参謀長（次帥から降格し、更迭）
	崔富一人民保安部長（6・10 朝鮮人民軍最高司令官命令で大将昇格）
	李永吉・軍総参謀長
大将	張正男・人民武力部長

▽は本来は軍人でない幹部

▼は軍の一線から引退している可能性が高い軍幹部

上記のリストの玄永哲氏までは韓国の統一院作成の2013年1月基準での軍部の大将以上の軍事称号保有者のリストである。その後3人の大将就任が確認されている。▽はもともとは軍人ではない党人であり、こうした党人が多数、軍事称号を得ている。次帥では崔龍海軍総政治局長、大将では金慶喜党政治局員、金京玉・党組織指導部第1副部長、朴道春党政治局員、処刑された張成沢・国防委副委員長である。旧社会主義国家では軍人が「軍服を脱いで背広を着て」党の要職について党を支配するという現象があったが、北朝鮮では、党人が「背広を脱いで軍服を着て」軍を統制するという現象が起きている。つまり次帥、大将の軍称号保有者29人中、党出身者が5人、既に一線を退いたとみられる金正日時代の軍幹部が12人にも及ぶ。金正恩時代の北朝鮮が、党中心主義で動き、その党政治局で軍部の力はそう小さくなく、軍部においては金正日時代の軍幹部がこの2年間で一線から退くという世代交代が進行している。

金正恩時代になり「労働党時代」という言葉が頻繁に使われている。「労働党時代」という言葉の使用は金正日時代にもあったが、金正恩時代に入ってその政権の特徴を示すように多用されている。張成沢氏の粛清で軍部の台頭を指摘する声があるが、金正恩時代は基本的には「労働党時代」と言ってよいだろう。

▽新側近勢力の台頭

金正恩政権がスタートして2年を経るなかで、金正恩第1書記が軍部隊訪問や現地指導などで随行させる新たな幹部が目立っている。金正恩時代の新側近勢力の台頭である。

そのメンバーは以下のような人々だ。軍部では、李永吉総参謀部作戦局長、張正男人民武力部長、金英哲偵察総局長、孫哲柱軍総政治局副局長、朴正川上将、尹東鉉人民武力部副部長、リョム・チョルソン中将、徐ホンチャン中将、金スギル中将、安ジョン中将、リム・グァンイル少将、全昌復人民武力部第1副部長兼後方総局長、金テック人民武力部副部長らである。

労働党では、朴泰成党副部長、黄炳瑞党組織指導部軍事担当副部長、崔輝党宣伝扇動部第1副部長、金炳鎬党宣伝扇動部副部長、馬園春党副部長党財政経理部副部長兼設計室長、洪ヨンチル党副部長、韓光相党財政経理部長らの台頭が著しい。

2014年3月末か4月初めには党中央委員会総会と最高人民会議の開催が予想されるが、ここでは金正恩時代の到来を告げるような人事面での世代交代が行なわれる可能性もあろう。

金正恩政権が2年を経て、金正恩第1書記の親政体制の強化へと向かっていることは否めないように見える。しかし、李英鎬、張成沢両氏の粛清という恐怖統治が長期的に金正恩政権の安定を生み出すかどうかはまだ今後の推移を見守る必要があるだろう。恐怖統治は一

時的には政權の安定を生むが、それが長続きするかどうかは他の要素が加味される。

金正恩第 1 書記が眞の意味で体制の安定を図るのは經濟の再建であり、人民生活の向上であろう。金正恩政權の經濟政策は本稿のテーマではないため言及は避けるが、金正恩政權の經濟政策は今後、朴奉珠首相中心に運営されるとみられる。この經濟政策が成功するかどうかは体制安定の最大の課題だ。

— 注 —

- 1 「朝鮮中央通信」2012年12月12日「《광명성-3》호 2 호기위성발사성공」
- 2 「聯合ニュース」2012年12月12日「김국방 "어제미사일발사대장착확인..靑보고」
- 3 同2012年12月12日「<北로켓발사>내차레실패후첫성공..핵탄두운반능력실증(종합)」
- 4 同12月13日「北 3 단로켓유도술획득한듯..실전배치미사일실험검해"(종합)」
- 5 「朝鮮中央通信」2013年1月23日「조선외무성유엔안전보장리사회 《결의》 비난」
- 6 同1月24日「조선국방위나라의자주권을수호하기위한전면대결전에나설것」
- 7 同1月26日「김정은동지국가안전및대외일군협의회를지도」
- 8 同2月3日「김정은동지지도밑에당중앙군사위원회확대회의」
- 9 同2月12日「조선중앙통신사보도제 3 차지하핵시험을성공적으로진행」
- 10 同2月12日「조선외무성핵시험은최대한의자재력발휘한 1 차대응조치」
- 11 同2013年1月1日「김정은동지께서 2013년새해를맞으며신년사를하시였다」
- 12 同1月28日「조선로동당제 4 차세포비서대회개막」
- 13 同3月5日「조선인민군최고사령부조선정전협정을완전히백지화」
- 14 「労働新聞」同3月6日「미국과괴뢰호전광들은중국적과멸을각오하라」
- 15 「朝鮮中央通信」同3月7日「김정은최고사령관장재도방어대와무도영웅방어대또다시시찰」
- 16 「労働新聞」3月8日付「조선인민군최고사령관김정은동지께서서남전선의최남단최대열점지역에위치한장재도방어대와무도영웅방어대를또다시시찰하시였다」
- 17 「朝鮮中央通信」3月8日「조평통북남사이의불가침합의전면폐기한다」
- 18 同3月9日「조선외무성반공화국 《제재결의》 전면배격」
- 19 「労働新聞」3月11日付「천만군민이떨쳐나우리의힘,우리의식으로반미대결전을총결산하고조국통일의력사적위업을기어이성취하자>전민항쟁으로싸워승리할것이다」
- 20 「朝鮮中央通信」3月16日「조선외무성선군의항로를곧바로나갈것강조」
- 21 「労働新聞」3月17日付「재침흉계가비낀악랄한반공화국소동」
- 22 「朝鮮中央通信」3月20日「김정은최고사령관자행고사로켓사격훈련을지도」
- 23 「聯合ニュース」3月21日「北, 공습경보발령...1 시간동안민방공훈련(종합 2 보)」
- 24 「朝鮮中央通信」3月26日「최고사령부성명 1 호전투근무태세에진입」
- 25 同「조선외무성성명반미전면대결전의최후단계에진입」
- 26 同3月29日「김정은최고사령관화력타격계획을비준」
- 27 同4月2日「조선원자력총국현존핵시설들의용도조절변경언급」
- 28 同4月4日「조선인민군총참모부미국의핵타격수단전개책동비난」
- 29 同4月18日「선국방위정책국도발행위중지,사죄하면대화」
- 30 同4月20日「로동신문군축위한회담은있어도비핵화와관련한회담은없을것」
- 31 同4月25日「조선인민군창건 81 돌례식거행-김정은동지참석」
- 32 同5月7日「조선인민군서남전선사령부적들의군사적도발과관련하여반타격명령하달」
- 33 同5月10日「조평통미국행각에서한남조선당국자의반공화국망발단죄」
- 34 同5月10日「조선외무성미국대통령은자신의그릇된관점부터교정해야할것이다」

- 35 同 3月 18日 「김정은동지께서전국경공업대회에서연설」
- 36 同 4月 13日 「조선중앙통신사론평조선반도긴장상태의책임은미국에있다」
- 37 同 3月 31日 「조선로동당중앙위 2013년 3월전원회의」
- 38 同 4月 1日 「최고인민회의제 12기제 7차회의」
- 39 「聯合ニュース」 5月 7日 「북한, 무수단미사일발사대서격납고로 옮겨"(종합)」
- 40 「朝鮮中央通信」 6月 5日 「김정은동지 《마식령속도》 창조하여새로운전성기열어나가자
고호소」
- 41 同 6月 6日 「조평통북남당국사이의회담제의」
- 42 同 6月 15日 「국방위조미당국사이에고위급회담을가질것을제안」
- 43 「共同通信」 6月 19日 「北朝鮮、6カ国に前向き 対話通じ非核化目指す 北京で中国と
戦略対話」
- 44 「朝鮮中央通信」 7月 25日 「김정은동지모시고조국해방전쟁참전렬사묘준공식」
- 45 同 7月 27日 「전승 60돛경축열병식및평양시군중시위-김정은동지참석」
- 46 「聯合ニュース」 2013年 8月 12日 「北 '유일사상 10대원칙' 첫개정...세습·노동당부각」
同 「<표>유일사상 10대원칙'개정전후비교」
- 47 「朝鮮中央通信」 8月 25日 「김정은동지선군절에즈음하여담화 《김정일동지의위대한선군혁명
사상과업적을길이빛내어나가자》 발표」 「경애하는김정은동지의담화 《김정일동지의위
대한선군혁명사상과업적을길이빛내어나가자》 전문」
- 48 同 9月 9日 「공화국창건 65돛경축열병식및평양시군중시위-김정은동지참석」
- 49 「労働新聞」 11月 21日 「조선인민군최고사령관김정은동지의지도밑에조선인민군제 2차
보위일군대회가진행되었다」
- 50 「朝鮮中央通信」 3月 31日 「조선로동당중앙위 2013년 3월전원회의」
- 51 「労働新聞」 8月 28日付掲載写真
- 52 「朝鮮中央通信」 8月 28日 「김정은원수님청년절에즈음하여 《화불컵》
1급남자축구결승경기관람」
- 53 同 10月 10日 「김정은동지금수산태양궁전방문」
- 54 「聯合ニュース」 12月 3日 「北 2인자장성택실각설...국정원 "측근2명공개처형"(종합)」
- 55 「朝鮮中央通信」 11月 6日 「장성택위원장이일본손님들을만났다」
- 56 「聯合ニュース」 12月 7日 「北, 기록영화서장성택모습삭제...실각사실인듯(종합)」
- 57 「朝鮮中央通信」 12月 9日 「조선로동당정치국확대회의 -김정은동지지도」
- 58 「労働新聞」 12月 13日付 「천만군민의치솟는분노의폭발.만고역적단호히처단-천하의만
고역적장성택에대한조선민주주의인민공화국국가안전보위부특별군사재판진행」
- 59 「朝鮮中央通信」 11月 30日 「김정은동지삼지연혁명전적지를돌아보시였다」
- 60 「労働新聞」 12月 11日付 「길이빛나라삼지연의강행군길이어!」
- 61 同 12月 18日付 「우리당과우리인민의위대한령도자김정일동지서거 2돛중앙추모대회혁명의
수도평양에서엄숙히거행경애하는김정은동지께서추모대회에참석하시였다」
- 62 「朝鮮中央通信」 12月 14日 「고김국태의장의위원회」